

令和 2 年 2 月 6 日 【木曜日】

ポッチャ用補助具を作製

手稲養護に贈呈

札幌高等養護の木工科

札幌高等養護学校（高橋勝利校長）は1月29日、手稲養護学校（松井由紀夫校長）にポッチャ用補助具を贈呈した。様々な身体状況に応じた競技を楽しむことができるよう、札幌高等養護木工科の生徒が作製。両校の児童生徒は補助具を活用して競技を楽しむなど、交流を深めた。

ポッチャは、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりするなどして近付けることを競う、パラリンピックの正式種目。障がいによってボールを投げることができなくても、補助具を使用して自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できるスポーツとなっている。



札幌高等養護は、木工科の男子生徒を中心に平成30年7月からポッチャ用補助具の作製に取り組んできた。今回、手稲養護に贈呈した補助具は、電動車いすや寝台移動車を利用する児童生徒も活動できるよう、ボタンを押すとボールが発射され、スロープを下っていく仕組み。

ポッチャの試合を実施。手稲養護初等部の児童4人と中等部の生徒5人、札幌高等養護の生徒11人が、各学校で2チームに分かれてゲームを楽しんだ。

交流後、札幌高等養護の生徒代表は「実習で工夫してつくったものを大切に使用してくれるとうれしい」と述べた。

松井校長は「札幌高等養護の生徒たちが本校の児童生徒たちのためにつくってくれたことがうれしい。互いに楽しさを確かめられてよかった」と謝意を示した。

札幌高等養護の小野博之

教諭は「今回の交流によって、生徒は自分たちの製品が役に立っている」という実感が得られ、交流の意義を感じることであったのではなか」と話した。

贈呈した補助具で実際に競技を行い、交流した